

記入日（西暦）2026 年 5 月 7 日

一般社団法人日本医療薬学会 学術委員会委員長 殿

医療薬学学術小委員会 研究活動報告書（継続）

1. 小委員会名、研究テーマ

小委員会名	2025 年度医療薬学学術第1小委員会
研究テーマ	地域医療構想の実現に向けた病院薬剤師確保対策と医療薬学教育に関する調査研究

2. 小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	キクチ マサフミ
	氏 名	菊地 正史
	所属施設の名称 (正式名称)	秋田大学医学部附属病院薬剤部、秋田大学大学院医学系研究科薬剤学講座

構成委員	氏 名	所 属	次年度
	木皿 重樹	東北医科薬科大学薬学部臨床薬剤学実習センター	継続
	菊池 大輔	東北医科薬科大学薬学部地域医療薬学教室	継続
	佐藤 倫広	東北医科薬科大学医学部衛生学・公衆衛生学教室	継続
	平泉 達哉	JA 秋田厚生連能代厚生医療センター薬剤科	継続
	八代 佳子	秋田県立循環器・脳脊髄センター薬剤部	継続
	新岡 文典	弘前大学大学院医学研究科薬剤学講座、弘前大学医学部附属病院薬剤部	継続
	山口 浩明	山形大学大学院医学系研究科創薬科学講座、山形大学医学部附属病院薬剤部	継続

注）「次年度」には、継続、新規（次年度から追加）、退任（今年度を以て退任）のいずれかを記入すること。

3. 研究の目的

本邦では、中長期的な人口構造や地域の医療ニーズの質・量の変化を見据え、医療機関の機能分化・連携を進め、良質かつ適切な医療を効率的に提供できる体制の確保を目的とする地域医療構想の実現が求められている。2022 年度に同時改訂された医学・歯学・薬学の教育モデル・コア・カリキュラムのキャッチフレーズ「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ、活躍できる医療人の養成」は、地域医療構想に資する薬剤師の姿そのものである。一方で、厚生労働省の「令和 4 年度薬剤師確保のための調査・検討事業」において、薬剤師の従事先には業態の偏在や地域偏在があることが報告された。全都道府県の病院薬剤師の偏在指標は 0.80 であり、目標値 1.00 にほど遠く、薬局薬剤師の偏在指標 1.08 と比べても低値となった

ている。特に、東北地方の病院薬剤師の偏在指標は、青森県 0.55、秋田県 0.56、山形県 0.60、岩手県 0.65、福島県 0.65、宮城県 0.76 と極めて低値であり、病院薬剤師の確保が喫緊の課題となっている。

厚生労働省の第 8 次医療計画では、地域の実情に応じた薬剤師の確保策について、可能な限り具体的に記載すること、特に、病院薬剤師の確保策の検討及び実施については、都道府県病院薬剤師会とも連携の上取り組むことが記載されている。各都道府県における 2025 年度予算案では、病院薬剤師不足解消に向けた薬剤師確保対策事業が新設または拡大され、茨城県、青森県、大分県では 2,000 万円以上の規模となり、奨学金返還支援事業やインターンシップ事業などが本格的にスタートした。近年、都道府県病院薬剤師会は、各都道府県及び都道府県薬剤師会と連携し、様々な病院薬剤師の確保対策を実施しているが、それらの概要や効果はほとんど明らかにされていない。また、薬学生の地域指向性を高めるためには、地域医療における業務内容、やりがい、キャリアプランなどを含む医療薬学教育を十分に実施することが重要となるが、その体制も確立されていない。以上の背景から、効果的かつ持続可能な病院薬剤師の確保対策と医療薬学教育を明らかにすることは、病院薬剤師の地域偏在解消に不可欠であると考え。

そこで本研究では、全国の都道府県における病院薬剤師の確保対策および医療薬学教育の実態を調査し、地域医療に関わる薬学生と医療現場で活躍する薬剤師との共育体制を広く発信することで、地域医療構想の推進に資することを目的とする。

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、詳細に記載すること。

4-1. 研究活動報告（これまでの研究成果と達成度）

初年度(2025 年度)

2025 年 7 月 10 日にオンラインで医療薬学学術第 1 小委員会を開催し、アンケート内容について協議した。その後、2025 年度医療薬学学術第 1 小委員会においてアンケートを作成し、秋田大学倫理委員会に一括審査を申請するとともに、医療薬学学術委員会および理事会に提出した。秋田大学倫理委員会から承認は得られたが、医療薬学学術委員会および理事会よりアンケート内容の修正に関する助言を受け、現在修正対応を行っている。

今後、修正後のアンケートについて改めて医療薬学学術委員会および理事会の確認を受けた上で、再度、秋田大学倫理委員会の一括審査を依頼する予定である。

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

4-2. 研究業績（学会発表、論文等）

特記事項なし。

注) 本研究活動の成果に関する学会発表や論文情報を記載すること。枠の大きさは必要に応じて修正し、各

項目について詳細に記載すること。

5. 次年度の活動計画及び到達目標

1. 学術小委員会としての研究活動期間

2026 年 7 月 1 日 ～ 2027 年 6 月 30 日まで 通算 3 年間の 2 年目

・ 会議の開催予定回数 2 回

2. 次年度の活動計画及び到達目標

(前年度の活動計画又は到達目標を変更する場合は、その理由を記載)

月	実施項目	担当者
7 月	医療薬学学術小委員会の開催(オンライン開催)	菊地、木皿 菊池、佐藤 平泉、八代 新岡、山口
7-8 月	修正後のアンケートについて、医療薬学学術委員会および理事会の確認を受ける。	菊地、木皿 菊池、佐藤 平泉、八代 新岡、山口
9-10 月	アンケートの実施について、倫理委員会による承認を得る	菊地、木皿 菊池、佐藤
11-12 月	オンラインでアンケートを実施する(1 回目)	菊地、平泉 八代
1-2 月	アンケートを解析し、地域偏在解消に資する費用対効果の高い施策や医療薬学教育を明らかにする	菊地、木皿 菊池、佐藤 平泉、八代 新岡、山口
2-3 月	第 37 回日本医療薬学会年会に演題登録する	菊地
3 月	医療薬学学術小委員会の開催(オンライン開催)	菊地、木皿 菊池、佐藤 平泉、八代 新岡、山口

3. その他

特記事項なし

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

6. 共同研究、他学会・団体からの支援（COI 申告を含む）

特記事項なし。

注）提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。

7. 倫理指針、科学者の行動規範、個人情報保護法等への適合状況（倫理審査等の受審及び承認取得状況を含む）

2025 年度医療薬学学術第 1 小委員会においてアンケートを作成し、秋田大学倫理委員会に一括審査を申請するとともに、医療薬学学術委員会および理事会に提出した。秋田大学倫理委員会から承認は得られたが、医療薬学学術委員会および理事会よりアンケート内容の修正に関する助言を受け、現在修正対応を行っている。

今後、修正後のアンケートについて改めて医療薬学学術委員会および理事会の確認を受けた上で、再度、秋田大学倫理委員会の一括審査を依頼する予定である。

注） 前回提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。

8. 研究費支出計画

次年度の研究費支出希望額 373,950 円

費 目	過年度	次年度	全期間
(1)データベースの利用料			
(2)アンケート調査費		10,000	10,000
(3)会場使用料、映像・音響等機材利用料、装飾・案内看板等作成費			
(4)機器等のリース、レンタル費			
(5)印刷、製本費			
(6)通信、運搬費用			
(7)講師謝金、旅費等(本学会旅費、謝金規程の範囲内に限る)			
(8)運営スタッフ雇用費			
(9)支払手数料			
(10)消耗品費			
(11)業務委託費			
(12)小委員会活動に直接関連する学会・研修会等への参加費およびそのための旅費	126,050	136,975	136,975
(13)倫理審査の受審料			
(14)論文投稿料、掲載料			80,000
(15)雑費			
合 計			500,000

注) 過年度の支出額(過去に支出した金額)、次年度(単年度)及び全期間の支出見込みを記載すること。

9. 次年度支出計画の内訳

アンケート調査費

次年度は、アンケート調査を実施するため、その費用が必要である。

小委員会活動に直接関連する学会・研修会等への参加費およびそのための旅費

地域医療構想の実現に向けた病院薬剤師確保対策と医療薬学教育に関する情報収集のため、日本薬学会第147年会(東京)への参加費およびそのための旅費を予定している。

注) 費目ごとに詳細な支出計画を記載すること。